



題字・箱島信一書
発行 修猷館同窓会
東京支部事務局

〒185-0034
東京都国分寺市光町 2-14-85
(有)パルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
https://www.shuyu.gr.jp/ky/



「FUJI from THE SKY」より No.52 (2007年) *静岡県富士市上空5,000mから撮影
撮影：磯西 昭 1928年 静岡生まれ。富士ロータリークラブ会員。

不尽の山珍瓏としてひさかたの
天の一方におはしけるかも

北原白秋

広がれ！修猷の輪



東京修猷会副会長
等 健次
(昭和45年卒)

明けましておめでとうございます。

館友の皆様はつつがなく、令和初めての新しい年を迎えられていることと思います。

令和になって早8か月、大宰府ゆかりの元号になったことはうれしいことでした。万葉集の中で、大宰府の長であった大伴旅人の館(今の坂本八幡宮)で催された梅の宴で詠まれた歌三十二首の序文から引用されました。最初の歌を読めば、その雰囲気伝わってきます。

正月立ち春の来たらば斯くしこそ

梅を招きつつ楽しく終へめ (巻五 815)

ランニングしたり、ボートを漕いだりした大濠公園の中之島も万葉集ゆかりの地です。歌碑を目にした人も多いのではないのでしょうか。

しろたへの袖の別れを難みして

荒津の浜にやどりするかも (巻十二 3215)

当時は大陸に渡るの大変なことでした。太宰府といい、荒津といい 私たちは海外と人の行き交う土地柄の中で育ったことに思い至ります。

昨秋のラグビーワールドカップ。アイルランド、スコットランド強豪国を含む予選リーグで四連勝、ベスト8に入ったのには感動しました。様々な出身地の選手たちが、練習に練習を重ね、日本代表としてこころを一つにして戦い、勝ったことが大きいと思います。選手たちが君が代をしっかりと歌っていたのも印象的でした。同期のラグビー部OB満生修二君がいつも「All For One, One For All」と言っていたのを思い出します。彼は名古屋のラグビースタールのコーチをしています。ラグビー少年少女は急増しているとのこと。

今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックです。56年前の東京オリンピックでは(株)安川電機の創業者安川第五郎先輩が組織委員会会長でした。バレーボール、柔道、体操、マラソンなどテレビにかじりつい

て見ていたのを思い出します。当時世界の人口は33億人でしたが、今や76億人。日本からの海外渡航者は22万人が1900万人に、訪日外国人は27万人から3100万人と大勢の人が行き交う社会になりました。今回の参加選手数は前回の倍1万1千人になる予定です。福岡市はスウェーデン、ノルウェーの全種目のキャンプ地に、福岡県は29もの地域や国のキャンプ地になるそうです。テレビでしか見られなかった外国の選手たちが地元でも顔を合わせる時代になったのだと感慨深いものがあります。

修猷の現役は元気です。陸上部、ヨット部、ラグビー部など活躍しています。昨年十月の「いきいき茨城ゆめ国体」では、3年生の藤好駿太君が少年男子A400mで2位に入りました。皆で応援しましょう。

さて、私は仕事で平日は富士市に住んでいます。一日に何回も富士山を見ます。四季折々の味わい深い富士山を楽しんでいます。寒い朝雪冠を被った富士山の全姿が見えると、本当に素晴らしいその雄大さと壮厳さに心が洗われる気持ちがあります。

その富士山と修猷のうれしい接点が昨年ありました。GO猷会(平成5年卒)の総会の目玉企画は「新時代につなぐ六光星リレー280里行軍」。富士宮市に住む高柳丘さん(昭和49年卒)と、満開近い桜と雪冠の富士山を背景に浅間神社の赤い大鳥居の前でリレー映像をとれたことです。

その前の総会では、朋猷会(平成4年卒)が、「こんなところに修猷生」と題して、探検家、陶芸家、モデル、プロ麻雀士など幅広い業種で修猷OB・OGの活躍を紹介してくれました。

二木会では、人生100年の生き方、FinTech、商社のグローバルビジネス、博多織技術の伝承など様々な分野の講演がありました。毎回100人近い参加者があり、昨年末で651回を数えるまでになりました。

会報のテーマは「新時代へつなぐGO修猷の輪」を始め、深める「修猷活」です。総会、二木会、サロン・ド・修猷、会報を通じて「修猷の輪」は、すでに地域、業種、年代を越えて広がっています。館友の皆さんにもっと参加していただき、令和の時代でもさらなる広がりを目指したいものです。

最後に、今年が良い年となりますよう、館友の皆様のお祈りして新年のご挨拶とさせていただきます。

東京修猷会2020年活動スケジュール

- 1月 元旦 会報発行 (住所登録済の全会員に送付)
- 2月 9日(木)二木会 於：学士会館
- 3月 13日(木)二木会 於：学士会館
- 4月 12日(木)二木会 於：学士会館
26日(木)春期常任幹事会
- 5月 9日(木)二木会(新人歓迎会) 於：学士会館
19日(日)二木会ゴルフコンペ
- 6月 14日(木)二木会 於：学士会館
- 7月 12日(金)総会
テーマ「東京修猷2020 過去と未来をつなぐ猷(みち)」
於：ハイアットリージェンシー東京 クリスタルルーム
(幹事学年は平成6年卒) 午後6時より
- 8月 9日(木)二木会 於：学士会館
- 9月 12日(土)サロン・ド・修猷 於：学士会館
- 10月 27日(日)二木会ゴルフコンペ 於：学士会館
- 11月 8日(木)二木会 於：学士会館
22日(木)秋期常任幹事会
- 12月 12日(木)二木会 於：学士会館
10日(木)二木会忘年会 於：未定

令和元年度東京修猷会総会

「新時代へつなG O 修猷の輪」

実行委員長 渡辺 智彦 (平成5年卒 G O 猷会)

令和元年度東京修猷会総会 変温かいメッセージも頂戴しま

は、同年6月7日(金)にハイ

アットリージェンシー東京で開

催されました。当日はあいにく

の雨にもかかわらず、616名

もの館友の皆様にご参加を頂

き盛会のうちに終了しました。

新しい時代、令和を迎えた最初

の総会では、「新時代へつなG

O 修猷の輪」始める 深める

修猷活」をテーマに掲げ、皆

様が「修猷の輪」の中で新たな

出会いや想いを創出(修猷活)

して頂けるよう取り組んで参

りました。

第1部の総会では東京修猷

会伊藤哲朗会長、修猷館同窓

会川崎隆生会長、高島孝一館

長から御挨拶を頂き、また松尾

隆広幹事長より前年度の事業

報告が行われました。

第2部の恩師紹介では、私ど

もG O 猷会がお世話になった

田原秀則先生と上原洋祐先生

に福岡からお越し頂き、修猷館

で教鞭をとられた際の印象的

な思い出話について御講演頂

くとともに、私共の学年への大

ごさいます。

その後、平成31年の卒業生

と、開催を控えており

ます近畿・福岡・東京

の各同窓会の幹事学

年に御挨拶頂き、館歌

斉唱・エールを経て、

懇親会も終盤を迎え

ました。今回の総会

は、当日の会場の様子

を写真撮影し懇親会

の最後に映像化して

上映致しました。スク

第1部で挨拶をする川崎隆生修猷館同窓会会長

O 猷会にとって、何に



渡辺実行委員長

も代え難い宝物となりました。

皆様のたくさん笑顔に包まれ

ながら、懇親会は無事に幕を

下ろしました。

今振り返りますと、2年前に

私が実行委員長を拝命した際

は不安の塊でした。しかし、そ

んな私の背中を押してくれたの

は、同期の一人が言ってくれた

一言、「何だかんだ言って、結

局みんな修猷のことが好き」で

した。その言葉通り、個々に才

能のある同期が集まり、協力し

あつて課題を克服していく姿を

目にして不安は打ち消されて

いきました。

また、そんな私たちを温かく

支えて下さったのが、朋猷会(平

成4年卒)を始めとする諸先輩

方、東京修猷会執行部の皆様、

そして、映像企画にご協力頂い

た全国各地の館友の皆様でし

た。皆様に「修猷の輪」を感じ

て頂きたく取り組んできたはず

の我々が、逆に皆様から「修猷

の輪」を感じさせて頂きまし

た。我々G O 猷会は、東京修猷

会総会幹事学年としての活動

は幕を下ろしましたが、皆様か

ら受け取ったこの「修猷活」は

まさに始まったばかり。今後も

皆様と一緒に歩み続けて参り

たいと思います。

改めまして、昨年の総会が盛

会にて終えることができました

こと、この場を借りて皆様に厚

先生との再会

渉外担当 泉 大輔(平成5年卒 G O 猷会)

今年の総会にはお二人の恩師にご来場いただきました。英語の田原秀則先生と地理の上原洋祐先生です。私たち幹事学年が大変お世話になりました。是非ともお会いしたいという声が多い中、当時の思い出や修猷館への熱い思いを語っていただきました。

新時代の幕開けを感じた総会

西岡 修(昭和57年卒)

今年の総会のテーマは「新時代へつなG O 修猷の輪」始める 深める 修猷活」会場のハイアットリージェンシー東京に向かう道すがら、頑張る準備をしてくれたG O 猷会メンバーの顔が目に浮かび、期待で胸が膨らむ。

ありがたい修猷の縁

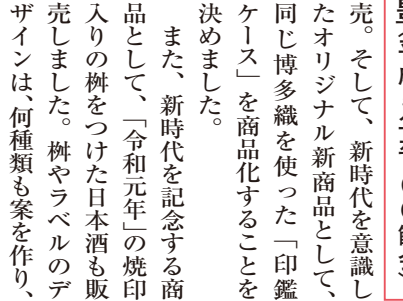
武田 有朋(平成12年卒)

これまで何度か総会に参加しておりますが、いつもながら参加される方々の人数と年齢層の幅広さに驚いています。社内の同僚に話すと、大抵驚かれます。皆さんの母校愛もさることながら、幹事学年の方々のご尽力の賜物だと思っております。

新時代を感じるオリジナル商品を開発

物販担当 小野 豊(平成5年卒 G O 猷会)

新時代「令和」が幕を開けて最初の東京修猷会総会。物販としても新時代を感じられるものをと、メンバー全員で何度もミーティングを重ね、必死にアイデアを絞り出しました。これまで定番商品として人気を博した「博多織の名刺入れ」は時代を繋ぐ商品として、色と柄を変えて継続販



上原 洋祐先生 田原 秀則先生



残念ながら当日完売とはなりませんでしたが、お買い上げ頂いた館友の皆様、本当にありがとうございます。

最後に全員で歌った館歌も格別なものでした。東京の地で、年代や仕事を超えて一体となれる修猷のご縁は本当にありがたいものだと思っております。

映像企画「新時代につなぐ六光星リレー280里行軍」

田原先生からは、先生が修猷館に赴任するにあたっての当時の先生間でのやりとりのエピソードから、修猷生への厚い信頼をメッセージとして受け取りました。先生はよく修猷館での教師生活を宝石の全力で私たちと向き合っていた思い出がよみがえってきますが、今となってはさうに有り難さが染み入る感じを覚えます。先生は修猷館に在籍されている頃から能の詞章をうたう謡曲をはじめられ、師範代の免許を取得されています。何かの機会に、ぜひ披露いただきたいと考えています。

上原先生には思い出話を多くいただきました。思わず話に引き込まれ、当時の様子が鮮明に

執行部で総会のお手伝いを

させて頂き、今年が最後の総会となったが、新しい時代の幕開けを感じさせる記憶に残る総会となった。

G O 猷会の皆さん、素晴らしい総会を有り難う。皆さんの修猷活はこれからです！

また、恩師としてお見えになった田原先生とお話しして

いると自然と高校時代に戻った心持ちがしました。卒業から約20年たちますが、不思議なものです。

今年の実行委員長を務められた渡辺さんは、

広田弘毅先輩が設立された学生寮「浩浩居」の先輩でありました。お仕事も大変厳しい状況の中、委員長の務めを全うされたことに、後輩として大変感謝を受けました。渡辺先輩、本当にお疲れさまでした。

また、恩師としてお見えになった田原先生とお話しして

学年企画 アンケート募集中

Q. 今のあなたに繋がる修猷生活の宝物は何ですか? 仲間、恩師、館歌、QR新.....ご回答は右のQRコードより、または下の担当者までお知らせ下さい。



担当者: 小河(おごう)

メール: h6dousou@gmail.com FAX: (03) 6385 7538

福岡県立修猷館高等学校同窓会
令和2年度
東京修猷会 総会
東京修猷 2020 ~ 過去と未来をつなぐ猷(みち)~

平成6年卒 六星会
令和2年6月12日(金) 18時

ハイアットリージェンシー 東京

「生徒諸君に伝えたいこと」

大須賀 頼彦(昭和37年卒)

昨年5月24日、母校の創立記念行事に赴き、僭越ながらも基調講演を致しました。年々大きく違う生徒達に何を話せば良いのか?と、当初、悩みましたものの、母校に貢献したい一心で引き受けました。なぜ、私に白羽の矢が立ったのかを高島館長に伺いましたら、同窓会誌「善哉」を読まれたとのこと。それは本会報の30号記念企画として、歴代4名の会長が「修猷らしさ」について論じたもので、翌年「善哉」に転載されました。それを着任されたばかりの高島館長が御覧になり、今ひとつシツクリ来なかった「修猷らしさ」を理解するに、私が引用した『不羈独立』が一番腑に落ち、この精神を今の生徒達に伝えて欲しかったから、と仰っていました。

修猷館を卒業し、東京での生活の方が長くなりました。就職の時、父に「それはお前の運命だ!東京に行きやい」と言われてから今日まで、『不羈独立』の精神は私の中に生きています。この基調講演で半生を振り返ることができ、福岡と東京、学校と同窓会の強い繋がりを実感しました。「日本の、世界の」未来を担う生徒諸君のキラキラと熱い眼差しを一身に受け、私は元気を頂きました。令和の時代も同窓会の繋がりを大切に人生を謳歌したいと心から思います。

こんな光栄な機会を頂戴し、孫の世代であろう生徒達に「鉄道からみえる日本、そして日本人」と題して、日本における鉄道の発展について話しました。明治5年の新橋〜横浜間開通から鉄道大国と呼ばれるほどの発展を遂げた所以は、「天・地・人の恵み」にあり、これら好条件が合致した結果が、今日の日本の近代化をもたらしたという鉄道史は私の歴史でもありません。終戦直後の幼き時代や修猷で何を学び、どう過ごしていたのかなど、少々、恥も晒しましたが、今では笑い



大須賀相談役(左)と高島館長

新橋で有名な校長先生

松本 睦彦(昭和39年卒)

サラリーマンの聖地、新橋のとある学校の校長先生はむっちゃ〜。『高校よせがきノート』で知られる九州郷土料理の店・新橋有薫酒蔵で、松本睦彦さん(昭和39年卒)は「有薫高校校長」と呼ばれており、ちょっとした有名人だ。同店女将の松永洋子さんによると、「むっちゃ〜(松本さん)は30年近くお店に『通学』してくれていて、自分の出身校は『有薫高校が本校で修猷館が分校』とまで言ってくれたの。それで校長先生に任命しちゃった」

修猷館を卒業し、東京での生活の方が長くなりました。就職の時、父に「それはお前の運命だ!東京に行きやい」と言われてから今日まで、『不羈独立』の精神は私の中に生きています。この基調講演で半生を振り返ることができ、福岡と東京、学校と同窓会の強い繋がりを実感しました。「日本の、世界の」未来を担う生徒諸君のキラキラと熱い眼差しを一身に受け、私は元気を頂きました。令和の時代も同窓会の繋がりを大切に人生を謳歌したいと心から思います。



修猷のよせがきノートを手にする松本睦彦さん(右)と新橋有薫酒蔵女将の松永洋子さん(左)。

新橋有薫酒蔵
港区新橋1-16-14リそな新橋ビルB1
03-3508-9296
日曜・月曜・祝日定休

昨年9月7日、学生会館にて、第13回サロン・ド・修猷「令和元年・学びのサロン」意外に知らない〇〇のはなし」が開催されました。快く先生役を引き受けてくださった3名の館友のご協力を得て、高校時代を彷彿させるような演出と共に、3教科を授業形式でお届けしました。

Salon de 修猷

第13回 令和元年・学びのサロン
「意外に知らない〇〇のはなし」

席に用意されていた、サロン・ド・修猷ノートを開くと、各授業のテキスト、修猷新聞2019春号抜粋「平成修猷回顧録」など盛りだくさん。授業開始前から熱心にノートに入ると、見る姿も多く見られました。

ホームルームの後はずいぶん1時間目、芸術・文化の授業。お茶の水女子大教授の神田由築先生(昭和59年卒)による「江戸のはなし」では、今年NHK大河の予習も兼ねて「江戸時代の人気ヒーローは明智光秀だった!」をテーマに、浄瑠璃で人気のあった演目を「なぜ当時の大衆の心に響いたのか」という視点から解説され、光秀の意外なウラ話を学べました。

は害鳥扱いされている...という驚きの内容をまとめた、カワウ哀歌を会場全員で熱唱、大盛り上がりでした。

3時限目は日本史。(株)寺子屋モデル代表の山口秀範先生(昭和42年卒)が「福岡と和歌のはなし」として、万葉の歌人から上皇陛下まで、詠まれた和歌とその背景についてゆかりの地の写真を交えながら解説されました。

福岡の歴史に思いを馳せながら、2時限目は理科。筑波大学附属小理科教諭の辻健先生(平成4年卒)による「自然のはなし」では、鵜飼いで馴染みの鵜について、鵜飼いに使われるウミウは重宝されているが、姿のよく似たカワウ



山口秀範さん



辻健さん

今年9月9日の未明から関東地方に上陸した台風15号の影響により、9月16日に山武グリーンカンントリー倶楽部で予定していた第44回二木会ゴルフコンペは中止となりました。松本睦彦さん(昭和39年卒)のご協力を得て、ギリギリまで開催の可能性を探りましたが、ゴルフ場の停電と断水が復旧に至らず、コースがクローズとなりました。

今回は48名の定員に対し、47名と満員近くの参加申し込みを頂いておりました。幹事

一同、心より御礼を申し上げます。開催を心待ちにされていた館友の方々も多くいらつしたと存じますが、過去最大級の規模で関東に上陸した台風の甚大な被害が長引くなか、やむを得ない決断となりました。

二木会ゴルフ幹事 上和田淳 (平成5年卒) GO猷会

次回、第45回は令和2年4月19日(日)に富士小山ゴルフクラブにて開催を予定しています。皆様広くお誘い合わせの上、奮ってご参加いただきませう宜しくお願い申し上げます。

2019年 二木会

- 第643回 H31.1 『人生100年時代の「働く」を考える』
古野 庸一氏 (昭和55年卒)
(株)リクルートマネジメントソリューションズ組織行動研究所 所長
- 第644回 H31.2 『我が国の観光産業の過去・現在・未来 ~多くの失敗体験を交えて~』
小原 健史氏 (昭和42年卒) (株)和多屋別荘 代表取締役
- 第645回 H31.3 『今、「用の美」に触れる喜び~伝統工芸品「博多織」の今後~』
大淵 和憲氏 (平成4年卒) 博多織作家・職人
- 第646回 H31.4 『福岡から世界へ、我が商社人生』
藤本 昌義氏 (昭和51年卒) 双日(株) 代表取締役社長CEO
- 第647回 R1.5 『みんな知ってるインターネットの、誰も知らない運営の現場』
前村 昌紀氏 (昭和61年卒)
日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC) インターネット推進部長
- 第648回 R1.7 『雨ニモマケズと被災地支援』
宇佐元 恭一氏 (昭和53年卒) シンガーソングライター
- 第649回 R1.9 『令和元年・学びのサロン 意外に知らない〇〇のはなし』
山口 秀範氏 (昭和42年卒) (株)寺子屋モデル 代表世話役社長
神田 由築氏 (昭和59年卒) お茶の水女子大学 基幹研究院教授
辻 健氏 (平成4年卒) 筑波大学附属小学校 理科教育研究部教諭
- 第650回 R1.10 『金融マーケットは、何を気にしているのか?』
加藤 純一氏 (昭和51年卒)
みずほフィナンシャルグループ 代表執行役専務グローバルマーケットカンパニー長
- 第651回 R1.11 『ドイツでの医者稼業50年 ~日独の文化比較~』
柏木 茂生氏 (昭和35年卒)
ベルリン・インターナショナルクリニック「Meoclini」医師
- R1.12 忘年会 ※肩書き、所属は講演時のもの

☆二木会の講演は6月・8月・9月・12月を除く毎月第2木曜夜に学生会館で開催しています。講演前に講師との食事会、講演後には懇親会を行い、館友同士の交流も盛んです。
☆9月は「Salon de 修猷」として土曜の日に開催。
☆12月は忘年会のため、講演はなく別会場となります。

会総会 幹事学年企画 『星リレー 280里行軍』

撮影箇所：54箇所
出演館友：延べ522名
修猷新宿間：280里

東京総会当日の感動と熱気をそのままに、会報紙面でも撮影にご協力頂いた方々からのコメントをリレー形式でつづりました！

私が撮影場所を選んだのは、博多駅。収録の数日前のロケハンで、駅の広場にカメラを向けてみたものの、現在の博多駅は何もかもが新しく、懐かしい風景が見当たらない。スマホを掲げながらウロウロとさまよう姿はやや挙動

『博多駅』
平成5年卒(GO猷会)
真子 千里

今回の企画の最難関課題は、撮影許可と協力者確保でしたが、校内撮影の快諾を頂いた岡本圭吾・前副校長と、協力頂いた同級生に感謝いたします。夕方、校舎内でアイディアを出し合ったのですが、卒業後の教室に同級生が集まったのは、最初で最後かも。校内を走り回る中年男女が、現役館生にどう映ったのかは気がかりです(笑)。無事、教室から福岡GO猷会の岩永実行委員長(令和四年度総会)のリレーが発射することができました。

『修猷館校内』
平成5年卒(GO猷会)
川畑 研二



不審。どうしようと思案していたところに目に入った、大きな盃を携えた黒田武士像に福岡を発つアンカーを託せました。

『黒崎』
平成6年卒(六星会)
田原 裕之

北九州市のJR黒崎駅で動画撮影に参加させて頂いた皆さま。若干緊張の面持ちでいるのは、高校時代に放送係として演劇部をサポートしたときを思い出したから・・・ではなく、乗る電車の発車時刻が迫っていたことや仕事の資料が入ったバッグを動画に映

らない場所に置いていたためです(すぐ取りに行ける距離ではありませんが、かなりの通行量だったので)。撮影が無事終了し、福岡から東京までのリレーに参加できたことは大変光栄です。

『小倉』
平成3年卒(讃猷会)
草間 義裕

280里なる壮大な行軍に、北九州・小倉にて参加させて頂きました。短い距離ながらも数名の館友とともに大変楽しい行軍でした。撮影場所は小倉城前という、それなりの観光地に行つたため、

有名なYouTuberかと勘違いされ、逆撮影されるなど、やや堅い表情での撮影。幹事学年の方に上手くアシスト(編集)していただき、全国の館友による行軍が六光星の下、無事フィニッシュができたことは、感謝と感動の気持ちで一杯です。

『中国四国修猷会』
平成5年卒(GO猷会)
花岡 美生(内村)

280里行軍に参加できて本当に良かったです！福岡・東京間で広島という大事な中継地点だったので、居住地からは少し離れていましたが、

ちゃんと原爆ドーム前の映像を撮ることができて良かったです！長女と参加しましたが、出来上がった映像を見て、近い将来長女も私からのバトンを引き継いで修猷に入ってくれたらなあという願いも強くなりました！

『近畿修猷会』
平成5年卒(GO猷会)
山本 剛

「関西って誰がおる？」「大阪らしいとこって、どこ？」六光星リレー「280里行

軍」参加にあたって考えたことは、やっぱりこの2つでした。SNSが発達した世の中とはいえ、これまでほとんど連絡を取っていない同級生とのやり取りはとても新鮮で、20年以上会っていないくてもすぐに打ち解けられる、本当に不思議な素晴らしい再会でした。撮影を快諾頂いた吉本新喜劇の方たちのご協力もあつたりと、大阪らしい楽しい動画が撮れたと思います。最後に、同級生との素晴らしい再会の機会を与えてくれた

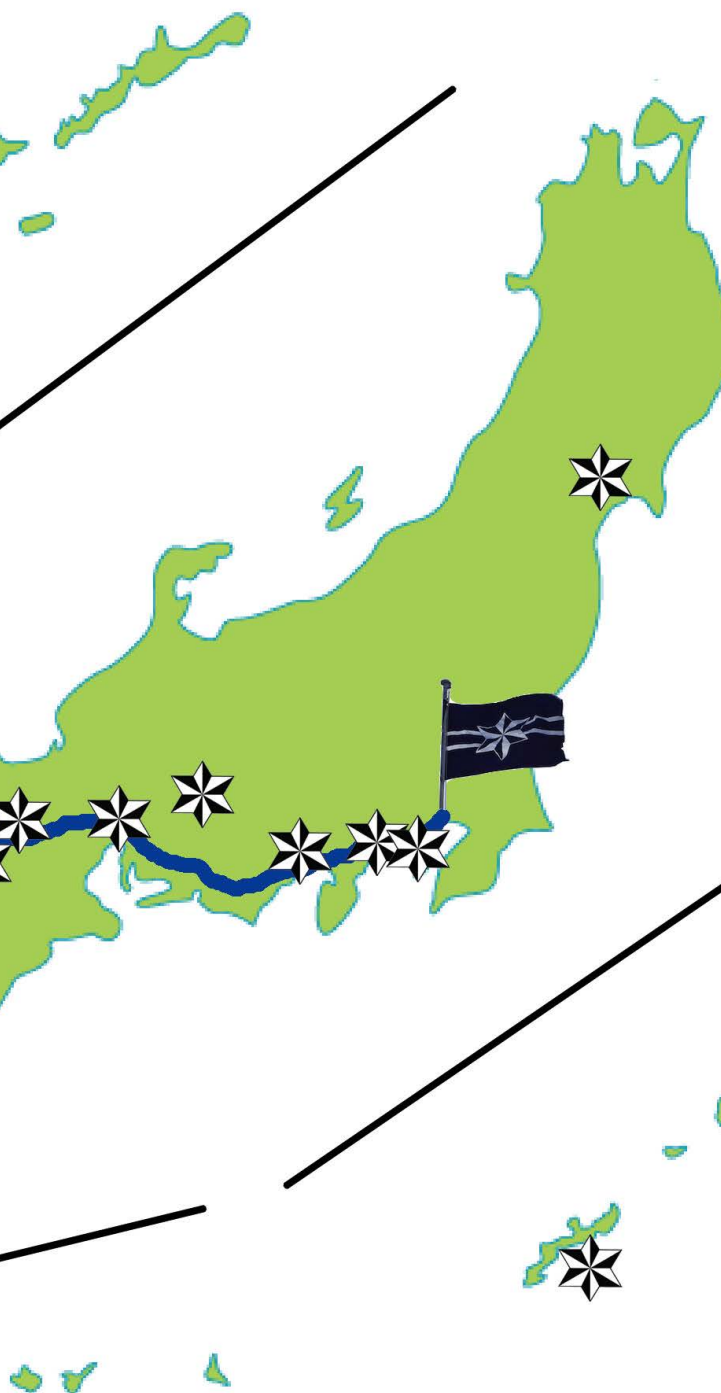
「280里行軍」企画にあらためて感謝します！

『中京修猷会』
平成元年卒(ガンガン会)
谷口 訓浩

撮影を引き受けたものの、当初は「場所やメンバーをどうしよう？」と少々悩みました。中京修猷会に相談したところ、執行部会とイベントで撮影協力を頂ける事になりました。当日は、皆様ノリノリで撮影に。館友の絆を感じつつ、イベントも含めて、楽しく撮影を行う事が出来ました。「引き受けて良かった♪」と充実感を得られる良い機会でした。大変だった事：強いて言えば、旗を事前に作る作業でしょうか。これも子供と一緒に楽しみつつ行いました(笑)。

『沖繩修猷会』
昭和55年卒(五五会)
山崎 秀雄

令和最初の東京修猷会の盛会と、時代の節目を記念するGO猷会学年企画「280里行軍」の完成にお喜び申し上げます。ビデオメッセージの撮影時は、泡盛の飲み過ぎと派手な黄色の紅型(びんがた)



令和元年度 東京修猷 『新時代につなぐ 六光』

「十里踏破遠足(十里行軍)」

昭和45年に第1回目が行われて以来、半世紀以上にわたって続いている修猷館の伝統行事。1・2年生全員で歩くこと十里(約40km)。主に糸島半島とその周辺のすべてのコースを生徒会執行部を中心に生徒たちが入念に下見し、歩行経路や時間の設定、当日の危険箇所での交通指導などもすべて生徒が主体となって運営する。

法被の効果もあって、自然と沖繩の緩い雰囲気ができあがってしまいました。ご来賓の川崎会長、高島館長、田中事務局長も紅型法被を御着用の緩い演技(?)にご協力いただきました。ありがとうございました！

『鹿児島修猷会』 平成4年卒(朋猷会) 後藤 健輔

まず「280里行軍」のテーマ・企画が、素晴らしい！と思いました。当初は福岡、東京間、ということでしたが、沖縄や他の九州各県の修猷会も撮影する、ということ、2月の鹿児島修猷会総会の際に、撮影を行うに至りました。総会の2次会にて「リレー動画、いつどこで撮影しようか？」を話し合った結果「日を改めると集まりにくいし、今夜やろう！」と、鹿児島の象徴・天文館の「むじやき」前(「しろくま」の店)での撮影を2次会の後に敢行致しました。今思うと本当に総会当日の夜に撮影できて良かったと思ひ、また、遠く鹿児島から企画に参加し、修猷活、ができたことは感無量でありました。ありがとうございました。



『宮崎修猷会』 平成5年卒(GO猷会) 光田 靖

宮崎修猷会では1月末に開催された宮崎修猷会総会・懇親会の会場にて、ご来賓の高島

館長先生と大賀幹事長にもご協力いただき、応援動画の撮影を行いました。ただ、おらかな風土の宮崎では奮起を促すような方言がなく、掛け声がなかなか決まらず、最終的に「てけてけていっちゃが」という宮崎弁となりました。

『札幌』 平成5年卒(GO猷会) 大塚 智子

ここ北海道には修猷同窓会がないため、同窓生探しに苦労しましたが、たまたま同業の集まりで後輩と出会い、動画撮影への協力を依頼したところ、快諾していただきました。福岡から遠く離れた北の大地でも、修猷の固い絆は健在で、とてもありがたかったです。

撮影は4月半ばの大通公園だったんですが、実は足元にはまだ雪の塊が残っていました！

『撮影協力』 平成2年卒(牟猷会) 原ちひろ(西田)

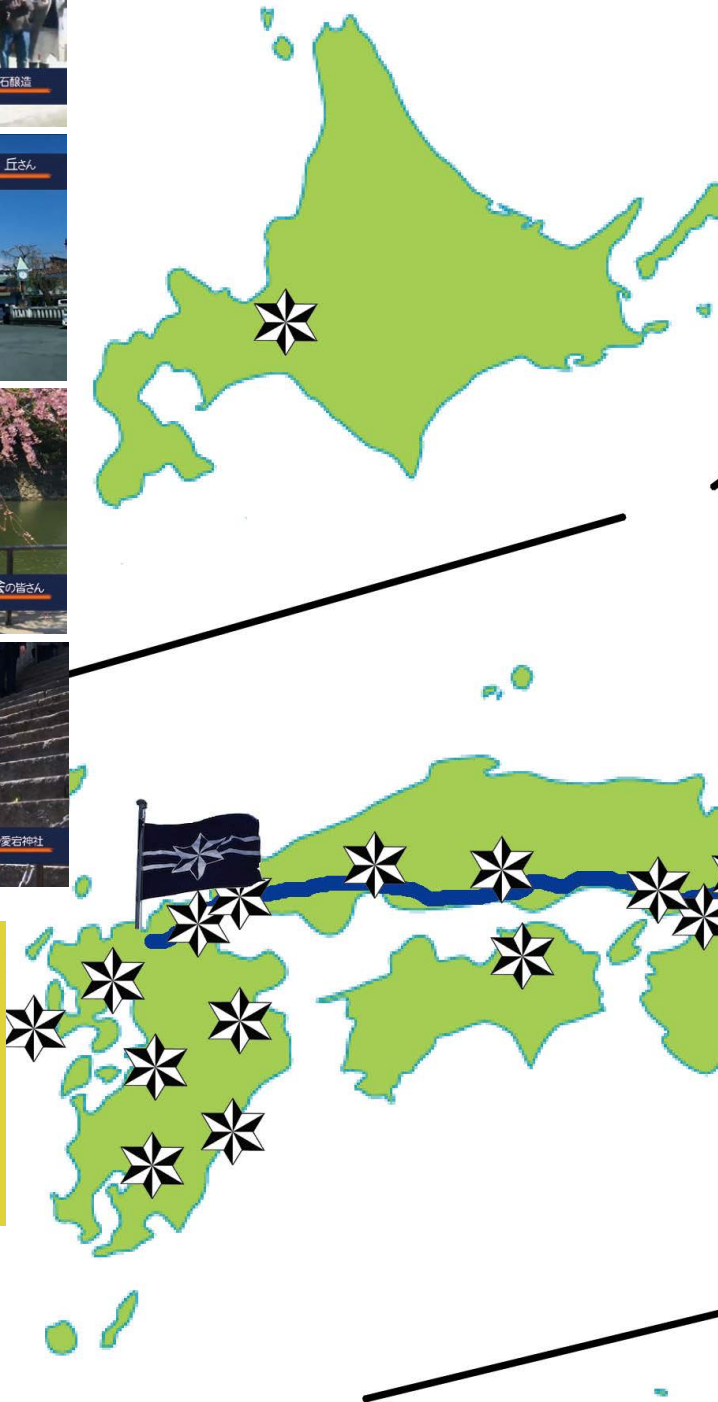
支部修猷会の最南端、沖縄を皮切りに、鹿児島や大分、長崎、広島等の総会にて「280里行軍」満喫！(ついでにキャラバンと観光も満喫です)印象的だったのは、動画の撮影が始まると会場の皆さんの表情が生き生きしますこと。カメラ目線で、大声で、笑顔全開で、わいわい！さっきまで「修猷出身の偉い人」だった先輩方も、やんちゃな男子高生達の瞳に戻って、現場の一体感も良かったです！

『十里行軍(踏破)』 平成5年卒(GO猷会) 峰 恵香(岩隈)

踏破ルートに自宅が近いことと、まだ十里行軍が続いているという懐かしさもあり、喜んで撮影に参加させていただきました。学校での打ち合わせでは「生徒から3点、注意事項を預かっていきます」と先生から説明を受け、生徒主導で

学年企画によせて 平成5年卒(GO猷会) 企画担当 大場 洋士

令和元年開催の東京修猷会総会は、昭和に生まれ、平成で卒業し、そして令和元年の幹事学年を担うという、GO猷会ならではの時代をつなぐ総会にしたいという思いで、本



インタビュー

太宰府ゆかりの令和、新たな心持ちの時代へ

修猷館同窓会副会長 西高辻 信良(昭和47年卒)

昨年11月、太宰府天満宮最高顧問の西高辻信良修猷館同窓会副会長が上京された際に、令和や太宰府、また、新時代へのメッセージなどをお伺いしました。(編集担当)

新元号「令和」が発表され、太宰府に注目が集まりました

令和という言葉が最初に聞き、原典が『万葉集』だと知って「とてもいいなあ」というのが第一印象でした。その後、「梅花の宴」と聞いた時は「えー」と言ったり、驚きのあまり声が出ず、倒れそうになりました。ちょうど4月1日は宮司の職を長男に継承した初日だったので、新宮司はもつとびつくりしたと思います。

梅花の宴、大伴旅人もクローアップされました

梅花の宴が開かれた8世紀前半は、奈良と太宰府の2ヶ所に都があったような状態でした。太宰府は外交と軍事の最前線であり、大伴旅人をはじめとする中央官僚のトップや最高峰の文化人がいたからこそ、そこで梅花の宴を開催できたのです。当時梅は、中国から入ってきたばかりで、梅花の宴はまさに文化の先進的なかたちでした。北部九州は昔から常に、精神性も含めて、時代の最先端を取り込む素地のある地域だと思います。

令和初の正月を迎えます

天皇陛下の御即位にあたり、「国民とともに」「お互いに寄り添いながら」というお言葉がありました。ラグビーW杯での日本代表の躍進を支えたのは「ワンチー

令和幕開け特集

「人」。修猷館の200年以上にわたる先人たちの功績に思いを馳せながら、わが母校は常に人材育成のフロントランナー



幼少のころから運動が嫌いだった。小中学校時代の体育の成績は大体「3」。そんな私が初めて体育で「5」を取ったのは、修猷の3年生の時だ。担任は、泣く子も黙る「白木

「この先生、頭おかしいんじゃない?」。最初はそう思った。しかし、嫌々でもやらされているうちに、「あれ?」

若返りが生じた、とする研究もある。令和初めての新年を迎え、私たちは「人生100年時代」に備える覚悟がますます必要になったと言えるだろう。

私は医療・健康に関する取材を20年以上続けているが、読者の健康への関心が高まっています。高まっているのを感じる。それはそうだろう。老後2000万円問題に象徴されるように、老後に安心して生活できる年金がもたらえるのか、ただでさえ不安は大きい。せめて健康だけでもこのまま維持したい、持病を悪化させないようにしたい、と願うのは当然のことだ。

今も空手を続けている。髪は白くなり老眼は進んだが、健康な体と心を何とか維持して

て、不思議ですね。原田 先日茶席を一緒にさせていただいた千宗室さんは「伝統とは伝承だ」と仰っていました。伝えて、承る。大切なことはあくまで人と人、心が介在するかわりのなかで、伝統になっていくのだと解釈しました。

対談

福岡の伝統の菓子文化の担い手

原田 実樹宜(平成7年卒) 石村 善之亮(平成10年卒)

千鳥屋本家の原田実樹宜社長と石村萬盛堂の石村善之亮社長。福岡を代表する老舗で活躍する二人の若手経営者にお話を伺いました。(編集担当)



共通点の多い、二人の社長

石村 原田社長とはこれまで何度もお会いしていましたが、実は先ほど改めてお聞きしたから、二人とも同じ、東大文学部の西洋史学科の出身だったと

知り、驚きました。原田 大学院の頃まで家業を継ぐつもりはありませんでしたが、事情があって家へ戻ることになった。先代の父から、勉強だけしてきたような奴には継がせられんと、調理師学校に入

ぶものは本当に大きいですね。石村 私は大学を出て、父の勧めで公認会計士を目指し、猛勉強してなんとか合格。原田さんと同じく家業を継ぐ意志は当初ありませんでしたが、ほどなく家族から一緒にやらないかと声がかかりました。長男としての責任意識もあり、2年前の7月から現職です。しかし、簡単ではないですね。一年の季節を巡るお菓子の商売なので、まずは3年回せてやっと思えてくるものがあるのかな、と思います。

原田 社長になって最初の3年は、大変ですね。私も机のうえに実印がボンと置かれて

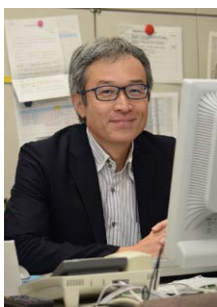
修猷生として 原田 西新でよく飲むのですが、隣も実は修猷の卒業生だと分かる時がある。たちまち肩を組んできて先輩後輩の関係になるあれは困りものですが、嬉しくもある。石村社長も今度西新へ飲みに行きましよう。

館友時評 令和は人生100年時代

山口 博弥(昭和56年卒)

私を動かす楽しさに気づかせてくださった白木先生には、感謝してもしきれない。先生、本当にありがとうございました!

山口 博弥 読売新聞東京本社編集委員 鹿兒島県生まれ。早稲田大学卒業後、1987年、読売新聞に入社。社会部などを経て、97年から医療情報室(現・医療部)で医療取材に携わる。医療部長、解説部長を経て、2019年9月から現職。胃がん、小児医療、医療事故、慢性の痛み、高齢者の健康法、心の病、マインドフルネスなどを取材。



山口 博弥

千鳥屋2階 喫茶一実にて

原田 実樹宜(写真左)

千鳥屋本家代表取締役社長。趣味は歴史。就寝前に古事記と日本書紀を読むのが習慣。

石村 善之亮(写真右)

石村萬盛堂代表取締役社長。趣味は読書。宇宙理論物理学から魏志倭人伝まで興味の幅が広い。

福岡発★修猷館レポート

Report★01 21年連続で 全国大会出場の快挙

—ディベート部—

ディベート部は、2019年8月に立教大学(豊島区)で開催された『ディベート甲子園』の愛称で知られる『第24回全国中学・高校ディベート選手権』(全国教室ディベート連盟など主催)に出場した。2001年に日本一の栄冠に輝いているディベート部は、今回も激戦の九州・沖縄地区予選(出場枠は5校)を勝ち抜き、21年連続でディベート甲子園出場を果たした。高校の部には全国各地の進学校を中心に32校が参加し、日本はフェイクニュースを規制すべきである。是非かという論題にのぞんだ。ディベート部員16人から選ばれた6人のメンバーで、18年ぶりの日本一奪回を目指したが、予選リーグで東海高(愛知)、筑波大附属駒場高(東京)

に敗れ、惜しくも決勝トーナメント進出はならなかった。ディベート部の神蘭真実(まこと)部長は「全国大会では焦りと緊張で思うような結果を出すことができませんでしたが、後輩たちにバトンをつなぐことはできたと思います」と全国大会を振り返った。また、顧問を務める二宮浩司先生は「3月の論題発表から膨大な調査、準備を重ねてきた。今回は女子中心の強気に攻めるチームだったが、本番での差は紙一重だった」と全国の大舞台で奮闘した部員たちを称えた。主催者によると、修猷館の21年連続出場は、24年連続の



第24回ディベート甲子園に出場したディベート部員

Report★02 第22回 海外派遣に参加して

波多江貴斗(3年)

私たちはアメリカ西海岸で貴重な8日間を過ごしました。研修中は現地の同窓会の方々の多大なご支援のもと、ふだん入れない施設の見学や専門性の高い話を聞かせていただきました。帰国した今、自分の価値観が研修前と比べて大きく変容したことに驚いています。

海外派遣とは平成7年から行われているアメリカでの6泊8日の研修旅行。全学年の希望者から書類や集団討論等で選ばれた12名が参加する。東海岸(ニューヨークとワシントンD.C.)にて、国連本部や日本大使館、同窓生の勤務先等を訪問する研修に加えて、平成26年以降は西海岸(サンノゼとロサンゼルス)での研修を開始し、現在は東と西での研修を交互に行っている。

今年度は西海岸にてベンチャー企業、起業支援機関、スタンフォード大学、全米日系人博物館、NASA JPL等を訪問し、各研修先で卒業生の方々にお世話になった。

例えば、「安定志向をやめよう」と考えるようになりまし。現地の学生と交流したとき、日本にはまだ、異端なことをする人を大事にする文化や、私たちが若者に積極的に起業させようという動きが足らないと感じました。まず自身が固定観念から抜け出し、「Zero to One Innovation」が起せる社会にしたいと思

また、「留学したい」という気持ちが強くなりました。NASA JPL等の研究施設への訪問では、最先端の研究に触れ、国際色豊かな環境の中で最先端の研究に没頭することへの強い憧れを抱きました。また、活躍されている先輩方の見識力や英語力には驚かされ、「T型人間力」がいかに大切であるかも学ぶことができました。

他にもここでは書ききれないほど多くのことを学びました。この研修で学んだことをただの体験で終わらせるのでなく、今後活かせるよう努力していきます。この研修にご尽力いただいた全ての方々に心から感謝しています。ありがとうございました。



ロサンゼルスでのOB懇親会



サンノゼでの研修



本人(右)とNASA JPLでお世話になった石松拓人さん(H12卒、左)

Report★03 茨城国体で修猷生が大活躍

—陸上部・ラグビー部—

ラグビーとバレーボールのワールドカップ、プロ野球のクライマックスシリーズと日本中が沸き立っていた2019年秋。二人の修猷生が第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」に出場していたことを存じだろうか。藤好駿太君(3年、陸上少年男子A400m)と野口大介君(3年、ラグビー少年男子福岡県選抜チーム)である。藤好駿太君は2018年に2年生ながら国体で優勝し、3年生で迎えた北部九州地区大会では独走で優勝。そのタイムは、福岡県の高校生歴代記録を6年ぶりに塗り替える速さである。今回の国体では惜しくも2位となったが、安定して結果を残してきた選手だ。一方、野口大介君が属し

●陸上部 藤好駿太君



●ラグビー部 野口大介君



修猷館のユニフォームはこちらです

陸上短距離走を始めた時期ときっかけを教えてください。中学1年生の時に体育の50m走で学年一位になったからです。

ラグビーを始めた時期ときっかけを教えてください。小学校1年生の時、高校、大学、社会人とラグビーをやっていた父に勧められて始めました。

部活動のメンバーはどのような存在ですか?またどのような刺激を受けていますか? おもしろいメンバーが揃っているの、楽しく練習できています。その反面、やる時にはやる人たちなので競い合える点で常に刺激を受けています。

今までの一番影響を受けた人物は誰ですか? 父です。仕事においてもラグビーにおいても、芯を持ってブレることがない、父のような人間になりたいと思っています。

自信をなくしたり、練習にやる気が起きない時などは、どのように乗り越えていますか? やる気がでない時でもなんと練習をこなして、やる気がおこるのを待ちます。

海外ラグビーの試合の動画を見て、モチベーションを高めています。自分とポジションが同じ選手の動画をみる人が多いです。

試合の前に必ずやることはありますか? 試合の前には必ずやるべきことは、練習にやる気が起きない時などは、どのように乗り越えていますか? やる気がでない時でもなんと練習をこなして、やる気がおこるのを待ちます。

茨城ゆめ国体の福岡県選抜チームのみんなと



2019年のインターハイでの1コマ



茨城ゆめ国体の福岡県選抜チームのみんなと

緑の芝が修猷を変える

修猷館高校同窓会会長 川崎 隆生(昭和44年卒)



東京五輪の2020年がスタートしました。56年前の東京五輪で日本が大変貌したのと同じように、今回も社会の在り様が大きく変わるのでしよう。

東京修猷会のメンバーはその変化を最も身近に感じ、楽しめるはず。皆さまにとって時代の節目の年が実り多く、記憶に残る素晴らしい1年になることを故郷からお祈り申し上げます。

スポーツが社会を明るく元気にすることを私たちは昨年のラグビーW杯で実感しました。「四年に一回ではない。一生に一度だ」という大会宣伝コピーが全国津々浦々に届き、北は札幌から南は福岡、大分、熊本まで「にわかファン」を含めて予想をはるかに上回る人がラグビー場に詰めかけました。テレビの視聴率もうなぎ上りでした。そこで多くの人があらためて気づいたのが、鮮やかな芝生の美しさでした。タツクル、スクラム、パス、トライ。躍動するプレーは鮮やかな緑のグラウンドだからこそ映えるのです。2020年の修猷館のキーワードも「芝生」です。長年の懸案だったグラウンド整備

の一環として人工芝化を実現することにしました。汗と涙を流したあの砂場のようなグラウンドに懐かしさを感じる元アシートの方々も多いでしょう。

しかし、現役の生徒たちとこれから修猷を目指す小学生の教育環境としてグラウンドの人工芝化が必要だと判断しました。ねん挫や脳震とう、傷口の化膿、周辺住民に迷惑をおかけしていた砂ほこりなどなどの解消にもつながります。県立高校であり、建設費は本来は県費で賄うのが筋ですが、知事の出身高校だからと言って修猷館を特別扱いすることはできません。県立高校すべてを人工芝化する予算の確保は難しく、予算化できても一遍には無理です。

そこで同窓会として巨費を投じることにしました。人工芝だけでなく、スポーツの基本であるランニング練習を安全かつ効果的に行える校内外周走路も建設します。地盤の基礎工事や照明設備などを含めた投資総額は5億円を超えます。約半分を同窓会が負担します。体育系の部活だけでなく授業や文化系の部活でも活用できます。

これだけの投資が可能なのは言うまでもなく諸先輩の残した資産があるおかげです。修猷学館の跡地活用や資金運用などを担当している修猷協会が重要な役割を果たしました。また、こうした諸先輩と

一緒に江口善雄・前館長と高島孝一・現館長、後田友房事務長、岡本圭吾・前副校長ら教職員室が総がかりで教育委員会や知事部局への説明、人工芝メーカーとの交渉などを担当していただきました。江口、高島両館長は同窓生ではないにもかかわらず、人工芝実現に対する熱意と行動力は私たちを圧倒していました。

昨年9月の運動会翌日に着工し、今年の運動会前に完成します。最先端技術を駆使した人工芝で耐用年数は少なくとも15年。20年は大丈夫と言われています。メンテナンスもこれまでの人工芝に比べると簡単で経済的な負担も少なくて済むようです。

東京五輪閉幕と同時に修猷の運動場の景色が変わります。帰郷や出張の折、ぜひご覧ください。お待ちしております。

この度副幹事長を拝命しました、卒猷会の小野頭です。二木会と二木会ゴルフを担当いたします。当初は恩返しと思って務めさせていただいた幹事学年の活動で、同期、先輩、後輩の皆様と素晴らしい時間を過ごさせていただき、「修猷」に更なるご恩を頂戴してしまつた思いでおりました。今度こそ恩返しを果たすべく、東京修猷会の更なる発展のため精進したいと存じます。ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。



人工芝グラウンドパース

昭和46年卒 学年便り

栗山 英俊 (昭和46年卒 常任幹事)

我々昭和46年卒、よからう会「は約490名うち女子は約90名で、昭和27年と28年早生まれ。日本が国際社会に復帰し、小6時代に東京五輪、高3時代に大阪万博と、経済発展を肌で感じながら成長した世代。平成9年総会の幹事学年で、近畿・福岡からの応援もあり、修猷の絆を再認識した。東京よからう会の1年は、鹿児島正信君からの、毎年4回の懇親会と4回のゴルフ会の案内で始まる。

代のこと、最近のことなど気軽に語っている。忘年会は35回目と長く続いている。これには西澤逸実君の貢献が大きい。夏の暑気払い会は、持ち回り幹事が、月島へのもんじゃ焼き散策や、神宮の森でのバーベキューなど楽しく企画している。9月の神田紅独演会は、講演一筋四十年余の紅さんの芸道に接する機会、前田郁生君が応援団の中心にいる。当然、独演会後は、余韻を胸に飲み会である。また、ここ数年は、同窓会常任幹事長として東京総会出席の大賀啓史君を囲む会も行っている。ゴルフ会は、最近20名近くに参加人数が増え、今年中には60回を超える。懇親会やゴルフ会と、四季折々の行事に多くの会員が参加してきている。



よからう会 令和最初の忘年会にて

福岡とは、副島広巳君から様々な案内があり、いつでも参加できる。また、同窓会活動へは、大賀君のほか、東京総会の実行委員長を務めた河野浩君が中国四国修猷会の会長として、また、土肥研一君は東京修猷会前幹事長として活躍している。これからも同窓会活動を応援していくとともに、還暦を過ぎた我々の二回目の青春を謳歌すべく、よからう会の活動もますます充実させていきたい。

2019年度寄付金

2018年11月1日から2019年10月31日までに多数の皆様から御寄付をいただきました。ありがとうございました。御礼の意味を込めて御名前を掲載させていただきます。(敬称略・卒年別)

- (昭20)野上三男、(昭22)増崎昭夫、(昭24)安藏復也、(昭25)山本義治、(昭26)石塚和男、(昭26)太田進、(昭26)小西正利、(昭26)常岡宏、(昭26)藤吉敏生、(昭27)金田久仁彦、(昭27)清原慶三、(昭28)松榮孝昌、(昭28)林美栄、(昭28)吉見健三、(昭29)高木道子、(昭30)遠山壽一、(昭31)浅田恭夫、(昭31)飯尾隆、(昭31)板垣征男、(昭31)影山滋、(昭31)岸川浩一郎、(昭31)伊達直哉、(昭31)中村保夫、(昭31)箱島信一、(昭31)村田和夫、(昭32)井上智晴、(昭32)鳥居健太、(昭32)内藤武宣、(昭32)平野熙幸、(昭32)和田聿生、(昭33)武石忠彦、(昭33)寺澤美和子、(昭33)水野澄雄、(昭33)米倉實、(昭34)讚井邦夫、(昭34)服部富美子、(昭34)行武賢一、(昭35)伊藤洋子、(昭35)可児晋、(昭35)三嶋陸夫、(昭36)安藤誠四郎、(昭36)土井高夫、(昭36)濱地康彦、(昭36)横倉稔明、(昭37)大須賀頼彦、(昭37)松本常男、(昭38)上田茂、(昭38)渡辺紀大、(昭39)貝島資邦、(昭39)久保田康史、(昭39)松本陸彦、(昭40)井上浩、(昭40)棚町精子、(昭40)福江一郎、(昭40)山形紀明、(昭40)由良範泰、(昭41)新井真理子、(昭41)有山賢良、(昭41)高尾義行、(昭41)高木健二、(昭41)恒松芳一、(昭41)淀川和也、(昭41)渡辺耕士、(昭43)三條彰久、(昭44)坂井真知子、(昭44)重松秀士、(昭44)與小田健、(昭45)本田由紀子、(昭46)鹿児島正信、(昭46)栗山英俊、(昭46)中村伸生、(昭46)森山幹夫、(昭47)田辺宣孝、(昭48)高山信彦、(昭49)井手富士雄、(昭49)古森光一郎、(昭49)橋村秀喜、(昭50)小林みどり、(昭50)野中哲昌、(昭50)橋詰眞義、(昭51)安東泰隆、(昭51)加藤純一、(昭51)小林明、(昭51)油田哲、(昭53)上藺勉、(昭53)新納康彦、(昭53)村田隆信、(昭54)中原滋、(昭56)田中昭人、(昭56)三谷直幸、(昭57)西岡修、(昭58)井手慶祐、(昭60)朱雀誉史、(昭60)山根堅司、(平3)笠原愛佳、(平3)小島裕子、(平5)島田裕

執行部役員紹介



小野 顕 (平成2年卒)

この度副幹事長を拝命しました、卒猷会の小野頭です。二木会と二木会ゴルフを担当いたします。当初は恩返しと思って務めさせていただいた幹事学年の活動で、同期、先輩、後輩の皆様と素晴らしい時間を過ごさせていただき、「修猷」に更なるご恩を頂戴してしまつた思いでおりました。今度こそ恩返しを果たすべく、東京修猷会の更なる発展のため精進したいと存じます。ご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

編集後記

昭和64年(のちに平成元年)元旦に創刊された本会報は、今号の32号から令和の時代に入ります。「修猷の輪」をテーマとする今号を通じ、令和初の新春に、「館友の皆さんから元氣をもらった」「故郷や母校を思い出した」など、少しでも感じて頂けたら幸いです。

編集活動を通じて、修猷の繋がりの広さと強さ、まさに修猷の輪の奥深さを再発見させて頂く貴重な機会に恵まれました。末筆ではございますが、本会報にご協力くださったすべての方々に、心よりお礼を申し上げます。

平成5年卒 GO猷会 会報編集担当一同

東京修猷会 年会費納入のお願い

東京修猷会の会報の印刷・発送をはじめ年間行事等の活動は、全て皆様の年会費3,000円で運営されております。どうぞ会費の納入にご協力ください。

●年会費は年間を通じて受け付けております。

郵便振替、銀行振込、コンビニ振込、クレジットカード決済が選べます。二木会や総会の受付でも可能です。

郵便振替

口座名義：東京修猷会事務局
口座番号：00170-6-172892

銀行振込

銀行名：ゆうちょ銀行 口座名義：東京修猷会事務局
店名：〇一九(ゼロイチキユウ) 店番：019
預金種目：当座 口座番号：0172892

コンビニ振込

同封の振込用紙をご利用下さい。

クレジットカード決済

東京修猷会のホームページから申込みください。
《東京修猷会 <https://shuyu.gr.jp/tky/2016/01/nenkaihi.html>》

お振込のうち年会費を超える額はご寄付とさせていただきます。郵便振替・銀行振込は会員の特定が困難な場合があります。必ず卒年をいれるようお願いいたします。